

エスカレーターの安全啓発活動報告

— 若い世代と当事者意識を共有するために —

担当教員 中路真紀・新田都志子・濱田俊也

1. はじめに

2021年10月に埼玉県で日本初の「エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」（通称エスカレーター歩行禁止条例）が施行された。2023年10月には名古屋市で全国2例目となる条例が制定された。このようにエスカレーターの歩行問題は社会的にも関心が高まってきており、今後も調査研究と共に学生と一緒に取り組む実践的なアプローチの両面で本学に対する社会の期待は大きい。

以前の調査（新田2021）からこの問題の鍵を握るのは10代、20代の若い世代であることがわかっている。そのため、若い世代へ問題提起するために高校生が当事者として自らエスカレーターの安全な乗り方を提案するアイデアを募集し、最終的にプレゼンテーション大会で発表するというイベントを2023年3月に行った。大会の最優秀賞に選ばれた作品を本学のエスカレーターに実装し（写真1参照）、ショールームの役割を持たせた。

今回のプロジェクトはその成果報告を広く一般的に行うこと、また同じ問題意識を持つ産・官・学で集まり、社会、とりわけ若い世代に問題提起することを目的とし、若い世代が集まる大学の学園祭でシンポジウムとパネル展を開催した。

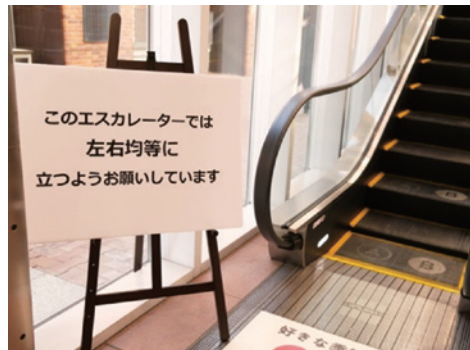


写真1

2. シンポジウムの開催

2023年10月21日（文京祭初日）に「未来の世代のために：エスカレーター安全利用を推進する」シンポジウムをS館コンソナホールにて行った。一部の趣旨説明と二部のパネルディスカッションに分かれて、二部の司会には若者に非常に人気のある声優の福山潤氏¹を迎えて一般にも参加を募った。

¹ 福山潤氏は2019年にNHKの「未来スイッチ」という番組内でエスカレーター安全啓発に関する取組のナレーターを務められ、そのシンポジウムで本学学生と共演しており、その縁から快くお引き受けいただいた。



写真2

当日は一般、本学関係者など117名が参加し、熱心に耳を傾けてくれた(写真2)。一部では福井学長の挨拶に続き、新田から本シンポジウムの趣旨説明並びに現状に関して報告を行った。二部では、エスカレーター問題に本学と一緒に取り組んできた産・官から代表して株式会社日立ビルシステム、東京都理学療法士協会、埼玉県に参加していただき、本学からはエスカレーター安全啓発プロジェクトに取り組んだ学生がパネラーとして参加、モデレーターとして新田、進行を濱田がそれぞれ担当した。前述のようにMCは福山氏が担当したこともあり、時々笑いもありながらのスムーズな運営で、終了後のアンケートでも大学の主催ということで難しい話ではと身構えてきたが、あっという間に時間が過ぎてこれまで知らなかったことに触れて非常に有意義であったという意見が多く寄せられた。

紙幅の都合で内容の詳細は別に譲るが、安全な乗り方への取組とそのプロモーションについてという2つのテーマでディスカッションを行い、これまでの取り組みや課題、新しい技術など様々なことが話し合われた。最後に本学学院長・理事長である島田が産・官・学での取組の有効性などについてまとめを行った。

3. 優秀作品のパネル展示による啓発

2023年10月23、24日の学園祭でエスカレーター安全啓発プロジェクトのこれまでの活動、上述した3月の高校生のプレゼン大会「エスカレーターの安全な乗り方アイデア募集2023」の優秀4作品を、エスカレーターの乗り方に関するフィールドワークを履修した学生たちがパネル化し、展示した(写真3)。



写真3



写真4

展示は、来場者の導線を考慮し、1階から最優秀作品が実装されたエスカレーターに乗車後、上がった先の2階エスカレーターホールに設置をした。シンポジウム受付を同じ2階に配することで、参加者全員がポスターを目にし、安全な乗り方を啓発することを可能とした。

本プロジェクトでは、学生18名が参加し、うち6名が制作チームとして中路指導のもと、夏休みからデザインの基礎を2度の講義形式で学び、ポスターデザインを行った。高校生のアイデアを資料で理解し、内容を整理した上で、デザイン制作、二つのソフトウェアの色調補正、告知ポスターとのトーン&マナーを合わせ、印刷を行った。

展示当日は、エスカレーター関連事業者が事業の参考にしたいと撮影したり、乗り方について小学生が親と会話する様子が見られるなど、エスカレーターの安全な乗り方の啓発に一定の効果が見られた(写真4)。

4. 結びに代えて

これまでの安全啓発活動の中で課題とされた若い世代への啓発策として行われた、高校生のプレゼン大会「エスカレーターの安全な乗り方アイデア募集2023」の成果報告のパネル展と産・官・学によるシンポジウムの開催について述べてきた。シンポジウムはMCに若い世代に人気の声優福山潤氏を迎えたことで一般からの参加はもちろん開催後の福山氏や参加者のSNSで#文京学院大学シンポジウムで広く拡散され、インプレッション数も30万回以上となり、当初の目的である学内外学生、高校生など若年層へアプローチすることができた。

今後も社会的にはますます注目が高まっており、引き続き産・官・学で協力しながら文京学院大学の活動としても継続していく必要がある。

〈参考文献〉

新田都志子(2021)「ヴィジュアルデザインを用いた行動変容アプローチ ―エスカレーターの片側空け抑制の効果検証を中心として―」『日本商業学会全国大会報告論集』、p.150-162、日本商業学会。